

如何するかと聞くと、「一つは少しも知らぬ人とするのと、今一つは自分より定つて下手な人とするのだ」といふことでした。

不老不死の藥

翁 丸

太「お父さん、あの何卒今夜は、脬の外れる様な御話して頂戴!!」

父「此處へお出で、脬の外れる様な話だ?。それぢや序に首の外れる様な話をすると爲う。氣を付けて首を落すな!

叔支那で昔、漢と云つた時に、武帝と云ふ豪い天子様が有つて、學問も出来、戦も強く、周圍の國々を降参させて仕舞つて、國は大きくなり、金

銀は澤山貯て、天下中に思ふ様に成らない事は無くなつたが、唯一つ思ふ様に行かない事があつた」

父「太郎何だか宛てゝぞ覽」

太「空飛ぶ事てなくつて」

父「否」

太「天に登る事」

父「中々、然うでない。仙人の處から、不老不死の藥と稱つて、幾年経つても老人にならず、何んな事でも死なぬといふ御藥を貰ひたいと思つたが、中々思ふ様に貰へない。夫で毎日、心配して居られた。處が到頭蓬萊山といふ處の仙人から其の藥を皇帝に差上げた」

太「日本には無くつて」

父「さあ大喜び、皇帝は此の藥があれば最早占めた、何時までも朕は死なずに、若くつてびんく

して居られると丸で惠比須様の様な顔で居る。

其の時に皇帝の御氣に入りの家來で、東方朔といふ人が御側に見て居た。此の人が一寸隙をねらつて其の薬瓶を取つて持つたかと思つると、たゞ一口に飲みほして仕舞つたので、さあ怒つたとか怒るまいとか酸漿よりも赤くなつて、ぶる／＼振ひながら皇帝は劔を引き抜いて

皇「此奴ッ。首出せ。打ち落すぞ」

といつて、立ち上ると、東方朔は

「專はつて私を御斬りなさる？はい私が死にましたら、薬は不死薬ぢやありません、薬が利くといふなら、私は死はしませんと申し上げたぞ」

●考(物)

●前號の解

(一) 鰯(五八四) (二) 鯖(三八)

●英語者へ物の解

(一) m (二) teacher (チー茶)

●この次は

(一) 福の何時でも見出さるゝ事のできる所は何處？

(二) 千〇九を三分して家道具の名一つ

(三) 苗字の數ばかり合はすと百二十一になり名前の數を合はすと十三になる昔の英雄は誰？

●問題 提出者 福島縣 狂 生

(一) 禿げ山もゐるに富山縣とは是れ如何

(二) 五穀もできるに粟(阿波)の國とは是れ如何

(三) 人家稠密なるに明(安藝)の國とは是れ如何

豫告

次號からは、毎號、インツブ物語を譯載することに致します